

北路は開拓の見込多し

新疆の面積と住民

概ね楊柳を並植するを常とす。大渠にして、渡渉至難のものに至りては、本道に並行せしめ、渡過し得べき小渠を以て本道に交叉せしむ。

天山北路に在ては、伊犁河の外、大河なきに依り、溝渠を開鑿して灌漑に供するの便を缺く。然れども、額爾齊斯河、瑪納斯河、額敏河を始とし、其他小流少なしとせず。今盛んに移民して、大規模の人工を加へ、大渠を通じ大池を造り、以て灌漑の便を計らば、目下の荒地を化して、將來の良田とし得べき、土地頗る多しとす。奈何せん住民稀薄の故に天恵の良土も、漸次荒廢に歸しつゝあるを。

新疆の全面積五十八萬平方哩に對し、住民の總數は、僅々二百萬人に過ぎず。即ち一平方哩毎に三人半弱の比例なり。是を以て移民の必要は、獨り伊犁のみに止まらざるなり。北路の全部は素より、南路に於ても現住民の數は土地の廣大なるに比すれば、稀薄も亦甚しければ、南北兩路共に、移民拓植を以て目下の急務とすべし。蓋し氣候互寒の如きは、深く憂ふるの要なく、寒地も住民の増加に伴ひ、漸次溫暖に化するは、掩ふべからざる事實にして、現に烏魯木齊の開設當時に比して、溫暖を加へたること幾度なるやを知らずと。